



○ 省略ことばⅡ

また続きを書いてしまいます。「職専免」ということばを56号で紹介しましたが、一般的に多くの職場で使われているものではないですね。主に公務員の世界が多いようです。公務員は全体の奉仕者であり、職務を自覚すべきでありますので「職務に専念する義務」という規定があります。小・中・高等学校等の“先生”は「教育公務員」ですので同じ立場です。

かつて「学校の先生は長い夏休みがあつていいね。」とときどき言われました。はたから見ればそのように思われるかもしれませんが。休業中（授業のない日）は全員が毎日必ずしも自分の勤務している学校で仕事をしているわけではありませんのでそのように見えるのでしょう。実際長期休業中の通勤時間帯の交通量（車の数）は通常よりも少ないと思います。実は授業のある時にはできない研修会への出席や部活動の試合などのためいろいろな場所に出向いているのです。

さて省略ことばの話題に入ります。「高校」や「プレゼン」など、職業に関係なくよく使う省略ことばもありますが、ある業界内だけで使うというものもありますね。「職専免」もそのうちのひとつでしょう。そのほかにはどんなものがあるかなと思い、調べてみたらあるわあるわ！

医療関係：「アッペ」＝虫垂または虫垂炎

警察関係：「安協」＝交通安全協会

芸能関係：「オケピ」＝オーケストラピット



多すぎるのでこの三つの紹介でやめておきます。省略ことばあるいは業界ことばそのものが悪いわけではありません。使われるにはそれなりの意味があります。必要性という点で挙げれば「業務の効率化」でしょうか。長い言葉は短くした方が速く伝わります。時間の節約ですね。また、同じ仲間同士で使うというある種の「連帯感」という面もありそうです。ただ使い方・場所・対象などには注意が必要です。仲間意識は悪い言葉でいえば「島国根性」につながりそうです。また、業界外の方が同席しているときに使ったら、その方は“置いてけぼり感”を味わうことになるでしょう。

似たものに「若者ことば」があります。いつの時代にも新しいものが出現し、そのうちすたれていくということの繰り返しです。年代が少し違うだけで“置いてけぼり感”を味わいますね。最近「・・・なう」という使われ方があるようです。かつて「ナウい！」というふうに使われていました。ニュアンスは微妙に違いますが、歴史は繰り返すのでしょうか？おもしろい。

話題がいろいろな方向に進んでいます。芸能界では夜でも「おはようございます。」と言うらしいと聞いたことがあります。本当でしょうか。しかし、いつの時代もどんな年代もどんな業界でも共通なこと、大切にしていきたいことは「気持ちのよいあいさつ」であることは間違いありません。

このたよりを読んでいただいているさまざまな方々、省略ことばとはちょっと違う方向になってしまい、感じ方はさまざまだったと想像しますが、最後の点だけは全ての皆様に同意していただけるものと思います。

自校自賛 卒業生

25日（木）に教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会を開催しました。保育協会会長、保育園副園長、高等学校教頭、同進路指導部長、本校卒業生の皆さんに委員を委嘱してご指導をいただきました。話の中で卒業生（1期生）が、「何事も初めてだったので大変だったけれども、在学中にたくさんのことを学びました。今の仕事はやりがいがあり充実しています。」ということを書いてくれました。在学学生たちも続いてほしいですね。



夏を乗り切るメダカたち